

Blitz

Art Photo Site Tokyo

6-20-29 Shimomeguro, Meguro-Ku, Tokyo 153-0064 Japan
TEL : 03-3714-0552 FAX: 03-3714-2571 E-mail: info@artphoto-site.com

報道各位

平成21年7月吉日

トミオ・セイケ写真展 「Untitled」

2010年 9月17日(金)～ 11月27日(土)
1:00PM～7:00PM/ 休廊 日・月曜日 / 入場無料

ブリッツ・ギャラリー

〒153-0064 東京都目黒区下目黒6-20-29 TEL 03-3714-0552
JR目黒駅からバス、目黒消防署下車徒歩3分 / 東急東横線学芸大学下車徒歩15分

- ・銀塩写真のマスター、セイケがデジタルプリントに挑戦
- ・歴史的な欧州都市を最新式のデジタルカメラで撮影
- ・プラチナ・プリントとインクジェット・プリントの同時展示も
- ・珠玉のデジタル作品はアート写真の本質を私たちに問いかける

このたびブリッツ・ギャラリーは、欧米のアート写真シーンで活躍中の写真家トミオ・セイケの新作写真展「Untitled」を開催します。本展の特徴は、これまでライカ使い、銀塩プリントのマスターと呼ばれるセイケが、コンパクト・デジタル・カメラとインクジェット・プリンターで作品を制作したことです。今回は、プラハ、アムステルダム、ブライTONなどの欧州の歴史的な面影が残る都市風景を撮影しています。

彼の試みの背景には、写真界における最近の急激なデジタル化があります。工業製品であるフィルムはいつメーカーの都合で生産中止になるかわかりません。しかし写真家はもしフィルムがなくなっても立ち往生するわけにはいきません。セイケは過去数年間にわたり、このような問題意識を持ってデジタルで作品制作の可能性を探してきました。銀塩写真で自分のオリジナルを確立した彼のプリントは、コレクターが見ただけでセイケ作品と見分けられるようになっていきます。セイケには、デジタル作品であっても、そこに明確な作家のシグニチャーを残せなければオリジナル리티を確立したということにならない、という強い思いがあるのです。

彼はメーカー提供品をテストしたわけではありません。納得のいくものを自費で購入し試行錯誤を続けてきました。デジタルカメラでの作品制作プロジェクトはシグマのDP2との出会いから具体化します。DP2には、デジタル一眼レフとほぼ同じサイズのイメージセンサーと、カラーフィルターを必要しないRGBの3原色が揃ったフルカラーキャプチャシステムを搭載しています。結果的にはこの小さなコンパクト・デジカメが彼にデジタル写真の可能性を伝えたのです。写真界の一部には、アナログカメラ、銀塩写真にこだわりも持つ人たちが存在します。しかしセイケはこれまでの銀塩モノクロームを携えつつも、デジタルカメラとインクジェット・プリントに可能性を探る作業を静かに進めているのです。今回のDP2による作品発表は、これから始まる彼の新しい挑戦の第一歩となるでしょう。

傍目には、セイケはライカとモノクロームプリントという保守的な写真作家と見られているかもしれませんが、彼は保守を貫きながらもそこからの新しい眼差しも備える作家なのです。ロンドンの老舗写真ギャラリー、ハミルトンズのディレクターは、セイケとデジタルを語った日、彼自身初めてデジタル写真の存在を意識したということです。セイケの本質が伝わってくる逸話だと思えます。

Blitz

Art Photo Site Tokyo

6-20-29 Shimomeguro, Meguro-Ku, Tokyo 153-0064 Japan

TEL : 03-3714-0552 FAX: 03-3714-2571 E-mail: info@artphoto-site.com

(...2/2)

トミオ・セイケは作品がファインプリントとして評価されている数少ない日本人写真家です。新たなチャレンジの先駆けとなる本展では、シグマDP2とSD14で撮影され、デジタル・アーカイバル・プリント(*)で制作された約25点が展示予定です。またセイケには珍しいカラー作品の参考出品、プラチナ・プリントとインクジェット・プリントの同時展示も行います。トミオ・セイケの新しいデジタル作品の世界をぜひご高覧いただくとともに、貴媒体においてのご紹介をよろしくお願い申し上げます。

(*)デジタル・アーカイバル・プリント

写真家、専門家による厳しい管理下で、使用インク(顔料系)や無酸紙にこだわり、高品位インクジェット・プリンターで制作されるデジタルプリントのことです。銀塩写真なみの耐久性があるとされています。

○ 写真展特別イベント

トミオ・セイケ・トーク・イベント 「DP2から見るデジタル写真のこれから」

9月18日(土) 午後2時~3時

完全予約制 先着25名様予定 入場無料

デジタル時代を迎えた欧米のアート写真界事情、デジタルカメラで作品制作を手掛けるようになったきっかけや、シグマDP2の魅力をお話いただきます。またシグマ広報の桑山輝明氏にもご参加いただき、作家、メーカー、参加者として質疑応答を行いながらデジタル写真の未来を展望します。

トミオ・セイケ・プロフィール

トミオ・セイケ(清家富夫)は1943年東京生まれ。欧米の主要アート・ギャラリーのハミルトンズ(ロンドン)などと契約し写真展を定期的に世界中で開催している数少ない日本人作家です。

会社員を3年経験後、1970年に日本写真学園を卒業しています。アシスタントを経験後、1975年からフリーランス写真家、その後イギリスに渡り1987年以降は東京とブライトンに居を構えています。現在は写真展、写真集を通しての作家活動のみを行い、商業写真は行っていません。

1982~1987年に取り組んだ「ZOE」シリーズで作家として注目されます。ロンドンのフォトグラファーズ・ギャラリーで初公開されて以降、ハミルトンズ(ロンドン)、ウエストン・ギャラリー(カーメル)、ツァイト・フォトサロン(日本橋)、コウジ・オグラ・ギャラリー(名古屋)、ギャラリーf5.6(ミュンヘン)など世界中で個展が開催されています。

その後、「Paris」1992年、「Waterscapes」2003年、「Glynde Forge」2006年、を相次いで発表し作家の地位を確立させます。欧米写真の伝統を踏まえた上に日本文化のエッセンスも感じさせる優れた作家性、卓越した撮影テクニック、自らがプリントする高い完成度の銀塩写真で世界中のコレクターを魅了し続けています。またほとんどの作品がライカで撮影されていることからカメラファンからも熱烈な支持を得ています。

作品は、ヒューストン美術館、サンタバーバラ美術館、ヨーロッパ写真美術館、フランス国立図書館、ラザール・ナショナルバンク、エルトン・ジョン・コレクション、エルメス財団パーマネントコレクション等に收藏されています。

以上

・お問い合わせ先 ブリッツ・ギャラリー <http://www.blitz-gallery.com> TEL 03-3714-0552

写真展の情報・画像はウェブサイト http://www.artphoto-site.com/inf_press.html でご覧いただけます。